

エディトリアル

東京ベイ・浦安市川医療センター 副管理者 木下順二

日本のプライマリ・ケアにおいては、高度の医療テクノロジーが広く活用されているのが欧米と比較しての大きな特徴になっている。その中でも上部消化管内視鏡と、超音波診断装置の普及は目覚ましいものがある。一般病院はもちろんのこと、山間や離島のへき地診療所においてさえこれらのテクノロジーが利用可能である場合が多い。日本全国どこに居住していようともこれらの検査を受けるために遠方に出向いたり、長い待機期間を要したりすることはほとんどなくなっている。

これらの検査は非常に専門的な技術と知識を要するにもかかわらず、日本においては医師が実施するにあたり何らの資格試験や技術試験などの裏付けが必要とされていない。このことは検査へのアクセスの容易さにつながりメリットでもあるが、検査精度や診断能力など検査の質を保証する裏付けがないことは大きな問題でもある。

私もそうであるが、多くの医師は、後期研修期間にこれらの検査の技術研修を受けたと思われる。しかしながら、その後に再び専門医からトレーニングを受ける機会を得ることは難しい場合も多く、知識や技術のブラッシュアップは自己学習に負うところが大きく、いつの間にか独善に陥る危険もある。新たなエビデンスやテクノロジーの導入による検査手技や診断・治療法の変遷に対して、十分に追いついていくことは決して容易ではない。

今回の特集は、プライマリ・ケアの現場の第一線で活躍している非専門の医師を対象として、その道の専門家の立場から、各検査で気を付けるべきポイント、コツや工夫を伝授していただくと考え企画した。各分野ともそれだけで一冊の本が多数出版されている中で、わずか数ページでコアの部分を解説してもらおうというのはかなり無茶な話である。しかし、今回の執筆者の先生方にはこの困難な要請に見事に応じていただいた。

前半は上部消化管内視鏡検査編として、「プライマリ・ケア医のための上部消化管内視鏡検査」を伊東市民病院の小野田圭佑先生、川合耕治先生にご執筆いただいた。同院で教育している内視鏡検査とはどのようなものか、重要なエッセンスが凝縮されている。その内容は洗浄・消毒に始まり、写真撮影や手技上のポイント、内視鏡診断への考え方、生検の注意点など、まさに検査のレベルをワンランクアップさせるためのヒントに満ちている。明日内視鏡を持った時に、それは実感されるに違いない。

後半は超音波検査編として4編の原稿をご執筆いただいた。「プライマリ・ケア医のための腹部超音波検査のポイント」では、東京北社会保険病院消化器内科の落合香織先生、藤原悠史先生、青柳有司先生、生理検査室の秋池 功先生から、腹部の主たる臓器である肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、脾臓、腎臓・副腎、消化管、婦人科系、泌尿器・生殖器系について、観察

の工夫やポイントについて明瞭に記載していただいたあと、臨床現場で遭遇しやすい疾患への対応についてQ&A形式でアドバイスをまとめていただいた。具体的なフォローアップの方針は、日常診療にすぐに活かせるものとなっている。

「プライマリ・ケア医のための心エコー図のポイント」はわが国における心エコー図の第一人者である東京ベイ・浦安市川医療センターの渡辺弘之ハートセンター長にご執筆いただいた。広範囲にわたる心エコー図検査の観察領域の中から、虚血性心疾患と大動脈弁疾患にポイントを絞り、理論的背景からの解説をいただいた。心電図異常のはっきりしない胸痛患者であっても、心エコー図での壁運動異常を指摘できれば、適切に専門医へ紹介することが可能である。また高齢化につれて増加する心臓弁膜症の早期診断においては、プライマリ・ケア医の果たす役割は大きいと言える。

「プライマリ・ケア医のための乳腺・甲状腺超音波検査のポイント」は、新都心レディースクリニック院長の甲斐敏弘先生にご執筆いただいた。腹部・心臓に比べると体表プローブを使った検査についてはトレーニングの機会は必ずしも多くなく、自己学習で検査を行っているプライマリ・ケア医も多いと思われる。専門医へのアクセスに制限があるへき地・離島では、どこまで自分でフォローし、どのような症例を専門医に紹介すべきかその判断に悩まされることも多い。この記事では、その対応方針について一つの基準を示してくれるものである。

「プライマリ・ケア医のための関節超音波検査入門」では、秋田市の城東整形外科の皆川洋至診療部長にご執筆いただいた。皆川先生は日本における関節超音波検査の第一人者で、多くの著書を世に送り出している。整形外科領域における超音波検査の応用は、診断の正確性とスピードに革命的な変化を与えた。今回は診療での豊富な経験の中からプライマリ・ケア医でも活用しやすい“五十肩”，肘内障，“足関節捻挫”の3点に絞って分かりやすく解説していただいた。興味を持たれた読者の方は皆川先生の著書でさらに中級、上級と進んでいただきたい。